HONDA
The Power of Dreams

Report On Driving Safety Promotion Activities 2010

Hondaの安全運転普及活動報告書

2010

SAFETY-JAPAN

本田技研工業株式会社
安全運転普及本部

安全運転普及活動報告書2010 ｜ 目次

ごあいさつ	3
安全運転普及活動40年の歩み	4
安全運転普及本部について	6
2010年の活動報告	10
2010年 活動TOPICS	13
幼児・小学生	14
中学・高校・大学生	16
運転者（一般・指導者）	18
高齢者	20
ソフトウェアの開発	22
普及活動の連携強化	24
安全運転普及活動拠点	26
2010年安全運転普及活動動員数	28
安全運転普及本部この1年の歩み	30

ごあいさつ

本田技研工業株式会社　専務取締役
安全運転普及本部本部長
大山　龍寛

日頃はHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰さまで1970年の安全運転普及本部発足から今年40年の節目を迎え、その間様々な分野で安全運転普及活動を展開することができました。これも、ひとえに多くの方々のお力添えによるものと、この場をお借りし、改めまして御礼を申し上げます。

振り返ってみますと、交通戦争と言われた当時から、今日の交通事故死者数がピークに比べ3分の1以下にまで低減しましたのは、官民一体となった様々な施策が効を奏した結果であり、安全な交通社会に一歩近づいたのではないかと考えます。

しかしながら、未だ年間約91万人の方が死傷されているのも事実で、特に割合が増加傾向にある歩行者、自転車、生活道路の事故という日本特有の状況を克服する必要があります。また進行しつつある超高齢化社会の中で人々の移動手段を確保し、生活の質を高める上でもクルマの果たす役割は一層重要になるものと予測されます。このような中でいかに安全を担保していくのかという課題に対しては、これまでにも増して、人・クルマ・道路環境の3つの領域が進化していく必要があり、事故そのものを予防するための施策が益々重要になってくると考えております。

Hondaは交通社会に共存する「すべての人の安全」をめざすことを基本的な考え方に置き、メーカーとして当たり前であるクルマの安全性を高める努力をして参りますが、人に焦点を当てた安全教育・啓発活動も、重要な事故予防策の1つとしてとらえています。

運転者教育とは異なり、歩行者、自転車利用者に対しては地域に根ざした形で安全教育が行われることが必要であると考え、一昨年、熊本にある事業所に地区普及ブロックを設置したのを皮切りに、昨年までに5つの事業所に同様の活動拠点を設け、子ども向け安全教育「あやとりぃ」シリーズやHonda自転車シミュレーターを活用した教育プログラムの指導方法を交通指導員の方などにお伝えして参りました。今年は約2,200人の指導者を養成し、その指導者が研修を行った方々を含めますと約26万人に交通安全の輪が広がりました。

今後この輪を維持し、さらに広げるために、これまで培ってきた指導者養成ノウハウ、教育プログラムや教育機器などをご紹介することで、地域の皆様の自主的な取り組みをお手伝いしたいと思います。また、交通教育センターを中心として、様々なニーズに対応した新しい教育の開発普及にも力を入れるとともに、増加する進展国の交通事故防止のため、現地法人と連携しながら安全運転普及活動を積極的に支援して参ります。より良き交通社会の実現のため、今後とも微力ではありますが努力してまいりたいと思います。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

安全運転普及活動40年の歩み

1970年、自動車メーカーの社会的責任として、安全運転を全国に広めるために「安全運転普及本部」は誕生しました。以来、「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を活動方針として、40年の歩みを重ねてきました。

1970年代

日本は本格的なモータリゼーションの到来により、1970年、交通事故死者数は史上最悪の年間1万6765人を記録。クルマの安全性に注目が集まったこの年、Hondaは「安全運転普及本部」（以下、安運本部）を設立しました。立ち上げに奔走した西田通弘（後の初代安運本部本部長）は、当時社長の本田宗一郎、副社長の藤澤武夫に「耐久消費財であるクルマは、ハードウェアとしての安全性を保証するだけでなく、使用者に対して、正しく楽しい乗り方といったソフトウェアを加えて初めて商品になる」と強く訴え、提案から20日後という異例のスピードで「安運本部」を創設。その半年後には、安全運転普及指導員の育成などを宣言し、1972年には、安運本部から認定を受けた安全運転普及指導員は8千人を超え、6万人のお客様に安全運転講習を実施しました。

お客様に製品をお渡しするだけでなく、安全も一緒にお届けしたい

1990年代

1990年代、二輪車事故死者数は減少傾向に転じ、四輪車の交通事故が社会問題化しました。その対策として、四輪ドライバーへの安全運転教育活動に本格的に着手。1991年、Hondaドライビング・スクール（HDS）を開始するとともに、より多くのお客様に安全を手渡しするために、1994年には四輪販売会社でセーフティコーディネーター※を養成しました。これを二輪販売会社にも拡大し、1998年にはライディングアドバイザー※の養成がスタートしました。安全ミニ講習会（四輪）、スポーツライディングスクール（二輪）を開催するなど、お客様へ安全アドバイスを行う体制を強化しました。また、歩行者への安全教育に焦点を当て、1995年には小学生を対象とした教育プログラム「あやとりぃ」を開発。その後も、教育の現場で活用できる教育プログラムの開発を進めました。

※お客様に安全運転についての説明や情報提供を行うために、交通教育センターでの専門研修を受けた営業スタッフやサービススタッフに与えられるHondaの社内資格。

- 70年　安全運転普及本部発足
- 71年　店頭アドバイスのための安全運転普及指導員養成
- 72年　官民一体の「二輪車安全運転推進委員会」発足。初心者マークの義務付け
- 74年　財団法人 国際交通安全学会設立
- 78年　Hondaモーターサイクリスト・スクール（HMS）スタート
- 82年　セーフティアップ作戦実施（オールHondaプロジェクト）
- 84年　運転免許保有者数が5千万人突破
- 86年　原付運転者ヘルメット・四輪車シートベルト着用義務化
- 89年「交通事故非常事態宣言」発令
- 91年　Hondaライディングシミュレーター発表
- 91年　普通免許にオートマチック車限定免許新設
- 91年　Hondaドライビング・スクール（HDS）スタート
- 94年　セーフティコーディネーター養成スタート（四輪販売会社）
- 95年　大型二輪免許の指定自動車教習所での教習が可能に
- 95年　小学生対象「あやとりぃ」スタート
- 98年　ライディングアドバイザー養成スタート（二輪販売会社）
- 00年　軽自動車、自動二輪車の高速道路での最高速度が100km/hに
- 04年「あやとりぃ長寿編」スタート
- 05年　高速道路における二輪車の二人乗りスタート
- 08年　地区普及ブロック発足
- 09年　Honda自転車シミュレーター発表

1970　1980　1990　2000　2010

1980年代

1980年代、原付の普及に加え、暴走族の危険走行や交通事故が深刻化し、二輪車事故死者数が急増。官民の安全意識が一段と高まり、道路交通法が大幅改正され、三ない運動※などが全国で展開されました。Hondaは「バイクを若者から遠ざけるのではなく、青少年が健全な交通参加者となるための安全教育を行うことが必要である」と考え、1982年にはセーフティアップ作戦を実施。1978年から開始していた二輪運転初心者向けのHondaモーターサイクリスト・スクール（HMS）の活動を強化するなど、「参加体験型の実践教育」に積極的に取り組みました。HMSに代表される教育プログラムは、Hondaの「危険を安全に体験する」という考え方から出発しました。しかし、実車を使った教育には限界があります。そこで80年代の後半からシミュレーター開発などの研究活動を強化し、1991年にはHondaライディングシミュレーターを発表しました。

※全国高等学校PTA連合会で推進された「免許を取らない、バイクを買わない、バイクに乗らない」の3つを原則禁止とした運動。

2000年代

2000年代、高齢者や自転車利用者の事故への関心が高まる中、運転者のみならず、すべての交通参加者に向けた活動を展開。子どもから高齢者まで、全世代に対する生涯教育に取り組みました。また、より多くの人に安全をお届けするため、活動エリアを拡大。全国5カ所に地区普及ブロックを設置し、各地域で安全教育に携わる指導者づくりを行うほか、自治体・警察などと連携しながら、地域社会と一体となって交通安全教育を実践できる基盤を整えました。こうした地域に根ざした活動を展開するとともに、高齢者や自転車の事故防止に向けた取り組みなど、時代のニーズに応じた新たなプログラムも開発しました。2009年の交通事故死者数は年間4914人にまで減少しましたが、今後もさらなる事故低減に向けて、活動の輪を広げていきます。

Safety for Everyone

交通社会に参加する、すべての人の安全をめざして

お客様に「安全な製品（ハード）をお渡しする」のと同時に、「安全に運転していただくための知識や技術（ソフト）をお伝えする」ことで、初めて安全な商品をお渡ししたと言えると考え、安全運転普及活動を「**Hondaが社会的責任として行う企業活動**」と位置づけ、取り組んできました。

1970年からスタートしたこの活動は、人に焦点を当てた「**人から人への手渡しの安全**」と、危険を安全に体験する「**参加体験型の実践教育**」を基本として、主に国内外の交通教育センター、四輪・二輪・汎用販売会社で展開しています。

40年の歩みを重ね、今、Hondaがめざすのは「**Safety for Everyone**」です。ドライバー・ライダーだけでなく、歩行者、自転車利用者など、交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい。そのために、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考えます。

私たちは**すべての人の安全の実現**に向けて、地域に根ざした交通安全の普及をはじめ、先進性、独自性のある活動に積極的に取り組んでいます。

Hondaの安全に対する考え方

安全運転普及本部の活動の三本柱

すべての人に安全を届けたいから、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。

人づくり

交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同してくださる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

場づくり

交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

ソフトウェアの開発

学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の1つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験いただける二輪・四輪・自転車の各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

安全運転普及本部の活動体制

できるだけ多くの人に安全教育に参加してほしいから、活動の場を広げています。

Safety for Everyone

安全運転普及本部を中心に、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフが配置されており、皆様に交通安全教育を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全活動に取り組んでいます。

※各々の活動の対象者や内容等については、P29をご参照ください。

安全運転普及本部
（青山・和光）

・全体統括
・研究開発活動

地区普及ブロック
製作所（全国5カ所）

子どもから高齢者までの地域に根ざした交通安全教育の普及を実施。

交通教育センター
（全国8カ所）

主に指導者の養成や、企業や一般運転者への安全運転教育を実施。

販売会社

二輪・四輪・汎用販売会社スタッフがお客様に安全アドバイスや安全講習会を実施。

外部との連携

・関連会社
・自動車教習所
・地域
・関係諸団体

海外・現地法人

海外の安全運転普及活動は、各現地法人が主体的に展開。

安全運転教育機器・交通安全教育教材

教育効果を高めるため、各年代に応じた教育機器・教材を開発しています。

危険を安全に体験できる二輪・四輪・自転車などの各種シミュレーターや、各種交通安全教育教材の開発に力を入れています。

幼児・小学生

あやとりぃ ひよこ編 今年作成
（幼児〜小学校低学年対象）

イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学ぶことができる。

あやとりぃ子ども自転車トレーニングマニュアル
（幼児〜小学校高学年対象）

実際に自転車に乗って安全意識を育てる体験型プログラム。安全を楽しく身につけることができる。

あやとりぃ
（小学3〜4年生対象）

小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養う。

Honda交通安全かるた

子どもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを45種類紹介。かるた遊びを通して、「命の大切さ」や「正しい交通行動」が学べる。

中学・高校・大学生

Honda 自転車シミュレーター
今年発売

自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図る。

※ 小学生〜高齢者まですべての世代にご利用いただいております。

Honda ライディングトレーナー

手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行える。

交通状況を鋭く読む〜危険予測トレーニング〜

運転者が路上で出会う危険を予測する能力を高めるためのトレーニング用教材。

運転者（一般・指導者）

Honda ライディングシミュレーター／Honda ドライビングシミュレーター

二輪・四輪運転中に起こりうる危険場面を、実際に近い運転感覚で安全に体験でき、危険に対する認知や判断、理解を深める。

Honda セーフティナビ

「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できる。

Honda 動画KYT
今年発売

集合教育において、実際の交通状況に近い動画を活用し、認知、判断を伴う危険予測能力を高めるトレーニングができる。

高齢者

あやとりぃ 長寿編

高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促す。

健康ドライブ読本

高齢ドライバーの運転に関わる身体機能の変化と、それを補う方法など、運転に役立つ情報を習得できる。

※Honda健康ドライブスクール教材

※各種教育機器・教材に関しては、ホームページで詳しくご紹介しています。

ホンダ　交通安全　検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

2010年の活動報告

これからの交通社会を見据え、継続・定着のための活動を強化

安全運転普及本部
事務局長
千葉　英雄

はじめに

Hondaは「お客様に安全な製品（ハード）をお渡しするとともに、安全に運転するための知識や技術（ソフト）を一緒にお伝えする」という理念のもと、1970年に安全運転普及本部を設立しました。以来40年間にわたり、「交通安全を伝える指導者の養成（人づくり）」、「教育の場と機会の提供（場づくり）」、「教育プログラムやシミュレーター等教育機器の開発（ソフトウェアの開発）」を3本柱としながら、活動を展開し続けて参りました。交通社会がますます複雑化する今日、私どもの活動内容や教育手法も時代に合わせて進化を遂げてきました。今年は、交通社会に参加するすべての人にHondaの持つ安全ノウハウをお届けするため、より現場のニーズに即した安全運転普及活動に取り組んで参りました。

2010年の重点テーマ

今年は、昨年展開して参りました活動の継続と定着を図るため、重点テーマとして、**「地域に根ざした活動の更なる充実」**と**「Hondaらしい先進性・独自性のある活動の強化」**を掲げ活動を展開して参りました。

「地域に根ざした活動の更なる充実」

交通安全を学ぶ場と機会を全国に広げるための活動拠点として、一昨年設置された熊本製作所を皮切りに、昨年は栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に「地区普及ブロック」を設置し、周辺地域への活動を開始しました。地区普及ブロックには専任のインストラクターを配置し、各地域での活動を主導する地域指導者の育成や、参加体験型実践教育の場と機会を提供しています。また、地域の自動車教習所、自治体、警察、Honda関連企業などと連携しながら、地域社会と一体となって交通安全教育を実施できる基盤を整えました。日本全国、どこの地域でも交通安全を学べる体制づくりを目指して、今年は活動をさらに拡大し、より地域に根ざした活動を展開しています。

「Hondaらしい先進性・独自性のある活動の強化」

二輪車・四輪車における「危険予測能力の向上」と「危険を安全に体験する」ことを目的に、Hondaはシミュレーター開発を続けています。これまでに培ってきたHonda独自のシミュレーション技術を教育現場で実践的に活用していただくため、今年は新たに「自転車シミュレーター」と「動画KYT」を開発しました。ともに運転者の安全運転意識を高めるツールとして、今後の活用が期待されています。また、㈶国際交通安全学会の研究プロジェクトにも参画し、今年4月に研究発表した「感情コントロール」プログラムは、ドライバーが運転中に自らの感情とどのように向き合い、どのようにコントロールし、安全行動を維持するかに焦点を当てた独自性のある新たな教育プログラムとして多方面より注目を集めています。

1.「地域に根ざした活動の更なる充実」に向けた展開

人づくり、場づくりの徹底強化

1つ目の重点テーマである「地域に根ざした活動の更なる充実」の実践に向け、様々な活動を展開する中で、私どもはより安全な交通社会を目指し、大きく2つの側面からアプローチを続けています。1つは、非運転者に交通社会の正しい知識やルールを知っていただく「交通安全領域」。もう1つは、運転者として交通社会に参加する人々に向けての「安全運転領域」です。これら2つの領域でそれぞれ、人づくり、場づくりの活動を強化し、展開しています。

交通安全領域へのアプローチ

昨年、製作所（全国5カ所）に設置が完了した「地区普及ブロック」では、2年目となる今年、活動の場を大きく広げ、地域指導者の育成を中心とした活動を展開しています。その結果、活動エリアは30都道府県と着実に拡大し、全国で2200人の地域指導者が育ち、普及動員は12月末見込みで26万人を超える活動へと広がっています。

また、私どもの活動に賛同していただいたHonda関連企業の従業員の中から、**Hondaパートナーシップ・インストラクター**を育成し、各企業周辺地域の交通安全活動に取り組む体制づくりにも着手して参りました。各地域でHonda関連企業が組織する熊本の「熊輪会※」に続き、栃木・埼玉の「災害防止協議会※」、浜松の「さつき会※」、鈴鹿の「七日会※」において、36社67名のインストラクターが本格的な活動を開始し、地域社会からの高い評価と信頼を得た活動として大いに期待されています。

しかしながら、地区普及ブロックのみでは地域に根ざした活動の継続・定着には至りません。各地域で育った地域指導者が地域単位で主体的且つ継続的に活動を展開することで定着するものと考え、私どもは今後も積極的に活動のフォローや新たな教育手法・ツールの提供等、継続的な関わりを維持しながら地域の方々と一緒に取り組んで参ります。

※各地域におけるHonda関連企業数十社からなる組織。

安全運転領域へのアプローチ

全国8カ所の交通教育センターでは、企業や一般の方々を対象とした参加体験型実践教育を通じて、安全運転スキルの向上とともに、交通社会人として求められる運転時の心構えや周囲に対する思いやりのある運転行動等を伝承する活動に取り組み、中でも、郵便事業株式会社の従業員を対象とした二輪車指導者研修は年間を通じて1500人に及ぶ実践教育を実施する等、企業の指導者育成や従業員教育、一般のライダー・ドライバー等多くの方々に好評をいただいています。

また今年は自動車教習所と連携した地域に根ざした活動も強化し、展開して参りました。

現在自動車教習所では、運転免許取得のための教育に加え、交通安全を普及するための地域の交通教育センター化を目指し取り組まれている教習所が数多く存在します。その中で私どもが取り組む活動にご賛同いただいた36校（10月末現在）の教習所と連携し、各教習所周辺の地域に根ざした交通安全普及活動に取り組んでいます。その活動は地元高校生に対する原付二輪車の安全運転実技指導、自転車シミュレーターを活用した中学生・高校生に対する自転車教室、周辺地域の方々に対する交通安全冊子の提供等多岐にわたり、地域になくてはならない活動として展開されています。

Hondaの販売拠点では今年もお客様に安全を手渡しする様々な活動を展開して参りました。お客様と直接触れ合い、絆を深める大切な安全運転普及活動拠点の1つとして、今後もお客様の期待に応えられる活動に取り組んで参ります。

2.「Hondaらしい先進性・独自性のある活動の強化」に向けた展開

現場ニーズに沿ったソフト開発

もう1つの重点テーマである「Hondaらしい先進性・独自性のある活動の強化」に向けて、各種教育教材やプログラム、シミュレーターに代表される教育機器等のソフトウェアをより多くの教育現場で活用していただけるよう開発を進めて参りました。

教育教材やカリキュラムの進化

Hondaは交通安全の生涯教育として、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、子どもたちへの交通安全教育の普及に積極的に取り組んでいます。

常日頃から子どもたちに接している保育園・幼稚園の先生方や、小学校等で直接交通安全指導をする地域の交通指導者が、主体的に交通安全を伝え広めることができるよう幼児から小学校低学年を対象とした**「あやとりぃ ひよこ編」**を教育現場のニーズに合わせ、全面的に改編しました。新しい「あやとりぃ ひよこ編」は従来の紙芝居サイズから大型ワークシートになり、子どもたちが参加しながら、楽しく学べる内容としました。また、**「交通安全かるた」**も従来の家庭用サイズからA4の大判サイズをご用意し、交通安全教室など多人数による集合教育の現場でも活用い

ただけるよう改善しました。更に、今年新たに㈶国際交通安全学会のプロジェクトに参画し開発された「**感情コントロール**」プログラムは運転者のマインドに焦点を当てた、今までにない教育プログラムとして、受講者から「斬新なアプローチで効果的」との評価を多数いただいています。

今後もより多くの教育現場でご活用いただけるように、教育現場の実情や指導者の声をしっかり受止め、全国各地の教育現場で活用できるソフトウェア開発にチャレンジして参ります。

普及に向けた教育機器の開発

私どもは近年、今までに培ってきたシミュレーション技術を最大限に活かし、より教育現場のニーズに合致し、多くの方々に手軽に利用していただける教育機器の開発に取組んで参りました。今年、11月に発売した「**動画KYT**」は、実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を受講者同士が相互に振返って議論することで危険感受性を高める教育機器です。最大の特長は、受講者が危険と感じた時間が個人毎に表示され、他者との比較をすることで自らの危険感受性の弱みに気づき、運転行動の変容を促すことにあります。大型プロジェクターを使うことで、多人数での集合研修にも活用できることから、今後様々な安全運転教育の現場で活用が期待されています。また、昨年発売した簡易型四輪シミュレーター「**セーフティナビ**」は、エコドライブを実践的に学べる機器として、更には、その利便性から医療現場での活用等多方面で利用していただいています。今後も、こうした安全運転の機器を多方面に活かす取り組みを含め、よりニーズに即した新たな教育手法や教育機材の開発に取り組んで参ります。

2011年に向けて

より安全安心な交通社会の実現のためには、官民が一体となってより一層の取り組みが必要であり、また、地域毎に地域の方々が主体的に交通安全普及活動を実践できる環境づくりが重要であると考えています。今後もHondaは、関係行政との連携を図りながら、活動の場と機会の提供や指導者の育成、社会ニーズに対応したソフトウェアの開発に積極的に取り組んで参ります。

また現在、私どもと一緒に取り組み、地域に根ざした活動を展開している多くの地域指導者の方々に向けては、今後も新たなノウハウの提供や、活動の継続・定着に向けたバックアップ体制を整え、積極的な支援・協力を行って参ります。

また、益々複雑化、煩雑化する交通社会の中で、安全運転や交通安全を普及拡大するためには、それぞれの世代や交通事情に対応した取り組みが不可欠です。そのためには社会ニーズを感知する情報収集力や分析力を高め、長年の経験と持てる技術を最大限に活かした、先進性・独自性・実効性ある効果的な教育機材・機器・プログラムなどソフトウェアの開発に積極的に取り組み、広く発信と提供を行って参ります。

そして、今や世界中で企業活動するHondaが目指す安全運転普及活動は、「Safety for Everyone」、世界中のすべての人の安全の実現です。現在進展国においては、二輪車・四輪車の保有台数が急拡大しており、同時に交通事故死者数も大幅に増加しています。

私どもの安全運転普及活動40年で培ったノウハウを、今後は必要とされる国々において展開することも私どもの重要な使命であると考えています。それぞれの国によって、交通事情の違いはあるものの、国内で培ってきたノウハウを活かしながら、Hondaの現地法人や各国の交通安全オピニオンリーダーと連携を強化し、地道ながらもできることから交通安全の普及拡大に取り組んで参ります。

今後ともHondaの安全運転普及活動へのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2010年 活動TOPICS

2010年の活動実績をご紹介します。
Hondaの安全運転普及活動は、子どもから高齢者まで、
「各年代に対応した交通安全教育」を
学べる場と機会を提供しております。
また、その実践をサポートするための教育プログラムや
教育機器を開発する「ソフトウェアの開発」。
自動車教習所をはじめとする関係諸団体との
「普及活動の連携強化」を進めております。

幼児・小学生 p14

「止まる」「見る」を軸とした体験教育を、
子どもたちに提供しています。

中学・高校・大学生 p16

交通社会の一員として安全運転の基礎を
伝えています。

運転者（一般・指導者） p18

安全運転に役立つ豊富な知識や技術を
お届けしています。

高齢者 p20

日頃の交通行動を振り返っていただく機会を
提供しています。

ソフトウェアの開発 p22

運転者に気づきを促す教育プログラムや
教育機器を開発しています。

普及活動の連携強化 p24

①自動車教習所との連携
②関係諸団体との連携と情報発信活動

幼児・小学生

「止まる」「見る」を軸とした体験教育を、子どもたちに提供しています。

Hondaは、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、体験を通し交通行動の基本を伝える教育プログラムや教材を開発しています。また、こうしたノウハウを子どもたちの安全教育に携わる保護者や学校、地域の指導者にお伝えする指導者養成活動に力を入れ、子どもたちへの交通安全教育の普及に取り組んでいます。

子どもの発達段階に応じた「あやとりぃ」

交通安全教育プログラム「あやとりぃ」は、1993年にHondaが三重県鈴鹿市と協力して開発したもので、成長に応じ3つのプログラムがあります（P8参照）。これらのプログラムは、幼稚園・保育園、小学校や地域の指導者を中心に活用されており、今年は全国各地で約5千人（10月末現在）の子どもたちに参加いただきました。

幼児から小学校低学年向けの「あやとりぃ ひよこ編」は、今年新たに教育現場の実情や子どもの特性に合わせ、集団学習や繰り返し学習をしやすい内容として再編。幼児が指導者の言葉に聞き入るプログラムと好評をいただいています。鈴鹿市の玉垣保育所では、今年8月、地域の交通教育指導員が「あやとりぃ ひよこ編」の指導と通学路での歩行講習を実施しました。こうした「あやとりぃ」の指導をより多くの地域に普及させるため、地区普及ブロックのインストラクターが、幼稚園教諭や保育士、地域の交通安全指導員に指導方法を伝える研修を実施するなど、指導者の養成に力を入れました。今年は、全国24府県119市区町村約1,100人（10月末現在）の指導者に「あやとりぃ」のノウハウをお伝えしています。

埼玉県秩父市の交通安全教育担当指導員による交通安全教室

三重県鈴鹿市立桜島小学校では、鈴鹿市交通教育指導員が「あやとりぃ」の座学の後、歩行講習を実施

危険を見て学ぶ交通安全教室

Honda関連企業では、自治体や関係諸団体と協力して、親子で楽しく交通安全を学べる「親子交通安全教室」を、地区普及ブロックのサポートを受けながら開催しています。

九州地区では、「熊輪会」※のインストラクターが活躍。今年は、9つの地域で（11月末現在）、関連企業近隣の親子を対象とした交通安全教室を開催しました。地元自治体や警察などと連携し、飛び出しや巻き込み事故など子どもに多い事故事例を模擬再現したり、クルマの運転席から見た死角を子ども自身の目で見て確かめる体験など、子どもたちに気づきを促すプログラムを実施しています。Hondaは、2008年より関連企業へ、交通安全指導を担う専任のインストラクターを養成する活動に力を入れており、こうした地域への安全活動が広がり始めています。他にも、模擬事故体験（埼玉普及ブロック）や自転車実技教室（鈴鹿普及ブロック）など、「見て」「聞いて」体験できる様々なプログラムを実施。身近に潜む危険を、子どもたちにわかりやすく伝えています。

※九州各地のHonda関連企業38社からなる組織。

九州地区で開催された熊輪会インストラクターによる親子交通安全教室

子どもたちに交通ルールやマナーを伝える活動

Hondaは、より多くの子どもたちに交通ルールやマナーの大切さを知ってもらうため、イベントでの啓発活動にも取り組んでいます。

今年8・9・10月には、東京・福岡・札幌で「Honda交通安全かるた」や「自転車シミュレーター」を使った「交通安全教室」を開催。「Honda交通安全かるた」は、かるたを通じて、交通ルールやマナーを学べるプログラム。イベントに訪れた親子にも「遊びながら楽しく学べる」と大好評でした。指導者用マニュアルがついたことで、地域イベントや学校など教育現場で使いやすいとの声を多数の指導者からいただきました。

また、イベント会場や交通教育センターで開催している「親子でバイクを楽しむ会」では保護者が先生となって、子どもにバイクを通じて交通ルール、マナーの大切さを伝えています。保護者の方からは、親子の絆を深めることができると評価を得ています。

福岡県で開催されたHonda交通安全かるたを使った「Honda×小学館 交通安全教室」

栃木県で開催された親子でバイクを楽しむ会

静岡県磐田警察署の小学校自転車安全教室

指導者の声

「あやとりぃ」は、交通体験の少ない子どもたちに「止まる」「見る」等の交通安全の基本を教える上で、実際に自分たちの足で走ってみて止まる体験や、簡単な実験などが含まれ、体験的で納得しやすくなっています。また、「あやとりぃ ひよこ編」は、イラストを使って道路の正しい通行場所を子どもたちに示してもらうなどの工夫があり、子どもたちの理解度を確かめながら進められるので、指導しやすさを実感しています。これからも、子どもたちに本当に伝わる交通安全教室をめざして、Hondaのインストラクターの方と共に取り組んでいきたいと思います。

熊本県 大津地区交通安全協会 交通安全教育講習員　桑原 洋子 さん

中学・高校・大学生

交通社会の一員として安全運転の基礎を伝えています。

登下校などを通じて、自転車・二輪車など新しい交通手段を使い始める中学・高校・大学生には、交通社会人としての自覚を促し、安全な交通行動の実践へと導くことが大切です。Hondaは、この世代の方々にも交通社会における危険を伝え、危険を予測する能力の向上や交通ルール・マナーの大切さを伝える活動に取り組んでいます。

自転車乗用中の事故を防ぐために

自転車乗用中に最も事故にあいやすいのが16～24歳の年代であり、次に多いのは15歳以下です。また、中学生から通学で自転車を利用し始める年代となります。そのため、中学生・高校生に向けた自転車交通安全教室は、自治体、警察、自動車教習所からの要請が増えています。Hondaはこうしたニーズに応えるために、「Honda自転車シミュレーター」を活用した自転車交通安全教室の指導マニュアルを整え、指導者の養成に積極的に取り組んでいます。

地域の交通安全指導員とともに浜松普及ブロックでは今年、静岡・石川・岐阜県内の中学・高校で、自転車交通安全教室を開催。代表生徒に自転車シミュレーターを体験してもらい、その映像を全員で見ながら、事故が起きやすい交差点での安全確認や、一時停止の重要性などを伝えました。静岡県内では、地域の交通安全指導員が中心となり、自転車シミュレーターを使った自転車交通安全教室の活動が拡大しています。

静岡県静岡南警察署交通安全指導員による「Honda自転車シミュレーター」を活用した自転車交通安全教室

沖縄県の津嘉山自動車学校と熊本普及ブロックが協働で開催した沖縄県立沖縄工業高等学校での自転車交通安全教室

また、提携先の自動車教習所（P24参照）である沖縄県の津嘉山自動車学校、名護自動車学校でも、熊本普及ブロックと協働で、沖縄県立沖縄工業高等学校・沖縄県立名護高等学校で自転車シミュレーターを活用した自転車交通安全教室を開催しています。

安全に二輪車通学するためのトレーニング

高校生・大学生になると、移動手段に新しく二輪車、四輪車が加わってきます。Hondaは、高校生・大学生に対し、バイクやクルマの楽しさと安全の両面を伝える指導に取り組んでいます。

熊本普及ブロックは今年、熊本県立大津高等学校、鹿児島県鹿屋市立鹿屋女子高等学校、立命館アジア太平洋大学（APU）で、通学等で二輪車を利用する生徒を対象とした二輪車安全運転教室を実施しました。また、今年は津嘉山自動車学校、名護自動車学校と協働で、沖縄県立沖縄水産高等学校でも二輪車安全運転教室を行いました。

二輪車安全運転教室では、事故防止につなげていただくため、二輪車事故の特性の説明を行ったり、乗車装備や日常点検の重要性も伝えています。また、「Hondaライディングトレーナー」（P8参照）を活用した指導では、交差点での飛び出しの危険性や、基本的な交通ルールを守り危険を予測して行動することの大切さを伝えました。

他にも、「走る・曲がる・止まる」という基本を身につけるための実技トレーニングを実施しています。高校生や大学生の年代では、経験不足による判断ミスが事故を引き起こします。生徒たちには、無理な運転はせず、安全に走行することの重要性を伝え、正確な操作を身につけるトレーニングを行いました。

運転者としての責任を自覚してもらい、安全知識を増やし危険を予測する能力を高めることで、事故を起こさない運転だけでなく、事故に巻き込まれない運転を身につけていただきたいと考えています。

鹿児島県鹿屋市立鹿屋女子高等学校で実施したライディングトレーナーを活用した交通安全教室（熊本普及ブロック）

沖縄県立沖縄水産高等学校では原付通学の生徒に実技指導を行った（津嘉山自動車学校・名護自動車学校・熊本普及ブロック）

指導者の声

今年5月に「Honda自転車シミュレーター」を導入し、10月までに中学生・高校生を対象にした自転車交通安全教室を10回開催しました。中学生・高校生は交通ルールを知ってはいるものの、危険予測能力はまだまだ未熟です。シミュレーター上で事故を疑似体験することで、生徒の皆さんに危険を予測することの重要性に気づいてもらいやすくなりました。また、体験した走行結果を様々な視点から確認できる再生機能も便利です。事故にあった場面で、他車から自分の自転車がどのように見えているのかを伝えることも、安全運転をしてもらう上でとても役立ちます。

静岡県静岡南警察署 交通安全指導員 係長　坂上 有美 さん

運転者（一般・指導者）

安全運転に役立つ豊富な知識や技術をお届けしてい ます。

Hondaの交通教育センターでは運転者の方々に、より安全について理解を深めていただくため、参加体験型の実践教育を主体とした様々な安全運転教育を提供しています。販売会社では、お客様や地域の方々との関わりを大切にしながら、手渡しで安全をお伝えする活動を展開しています。

高度な安全教育を提供する「交通教育センター」

全国8カ所にあるHondaの交通教育センター（P26参照）では、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約7万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Hondaモーターサイクリスト・スクール（二輪）やHondaドライビング・スクール（四輪）を開催。クルマやバイクの魅力を実感していただきながら、楽しく安全知識を身につけていただける様々なコースを用意し、お客様のスキルやニーズに合わせて提供しています。

企業向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供しています。職場の安全指導者や運転経験の少ない新入社員への研修、多発事故防止に対応した研修など、企業のリスクマネジメントに幅広くご活用いただいています。特に、近年は環境に配慮した「セーフティ・エコドライブ研修」や、事故を未然に防ぐために危険予測能力を高める「Honda動画KYT」（P22参照）研修が注目を集めています。今年開発された新教育プログラム「感情コントロール」（P23参照）もすでに企業研修で導入されています。

郵便事業㈱の指導者研修

様々な路面状況での運転操作を体験

また、企業や諸団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。埼玉県では、交通教育センターレインボー埼玉・和光主催の「2010 トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉」を開催し、約300名の方にご参加いただきました。さらに、全国3カ所で交通教育センター主催の安全運転セミナーが開催されました。その1つアクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、「社内でできる安全運転指導」をテーマに、事故削減に役立つ指導法の体験会を実施。職場の安全活動に活かそうと、体験会は大いに盛り上がりました。

Honda和光ビルで開催された「2010トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」（交通教育センターレインボー埼玉・和光）

手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動に取り組んでいます。安全運転に関するHondaの社内資格※1を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。販売会社は、安全ミニ講習会やドライビングスクール、ツーリングイベントを開催するなど独自に活動を展開しています。例えば、Honda Cars 福岡では、交通教育センターレインボー福岡を会場に、お客様感謝イベントを開催しました。お客様にエコドライブや安全運転の実技アドバイスを行ったほか、Honda自転車シミュレーター体験を実施し、ご家族で安全について考えていただく機会を提供しました。また、Honda Cars 東京中央では、「安全運転講習会」を実施。来店したお客様にエコドライブのコツを紹介し、Hondaセーフティナビを使ったエコドライブ診断にチャレンジしていただきました。九州地区では、Honda Dream 九州の1泊バイクツーリングイベントが開催され、九州各店舗を出発したツーリング隊計250名が鹿児島県霧島に集結。バイクの安全アドバイスのほか、親子連れのお客様には親子でバイクを楽しむ会などを実施し大盛況でした。また、オールHonda※2として、毎年春と秋の全国交通安全運動と連動した「Hondaセーフティキャンペーン」を展開しています。例えば、販売店では今年、店頭でパンフレット「飲酒運転しないさせないガイド」を配布したり、のぼりや誘導旗などにより、お客様や地域社会へ安全運転の訴求を行いました。

お客様へ直接、安全運転のアドバイスを行うドライビングスクール（Honda Cars 福岡）

Hondaセーフティナビ体験を通してエコドライブのアドバイスを実施（Honda Cars 東京中央）

※1　Honda社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができる「チーフセーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、モンパルの安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンパル安全運転指導員」などがある。

※2　Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda Dream）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

お客様の声

当社は、郵便物をお客様にお届けするため、日々道路を利用します。そのため、安全最優先の集配業務を徹底し交通事故防止に取り組んでいます。社員の安全運転教育をさらに強化するため、鈴鹿サーキット交通教育センターと協力して安全運転の研修プログラムを作成しました。また、各交通教育センターで指導者研修を実施しています。Hondaの研修は、受講者が指導者の立場で考えながら学べる点が効果的だと感じます。知識や技術だけでなく、なぜそれが必要なのかも教えてもらえるので、各支店での安全指導に役立っています。

郵便事業㈱ コンプライアンス部門安全推進部 交通安全担当係長　磯崎 征司 さん

高齢者

日頃の交通行動を振り返っていただく機会を提供して います。

高齢者の方々には、自身の身体機能の低下を自覚してもらい、それを交通行動の変容につなげることが必要であると考えています。Hondaは高齢者の方々に、安全にいきいきと交通社会へ参加していただくため、交通安全知識の提供や自発的な改善へと導く交通安全教育の普及に努めています。

いつまでも安全に運転を続けるための実技スクール

交通教育センターでは、高齢ドライバーを対象とした少人数制教育プログラム「Honda健康ドライブスクール」※を実施しています。参加した高齢ドライバーの運転を車載カメラで録画し、自分の運転映像を見て自ら問題点に気づいてもらい、運転への行動変容を促しています。

このプログラムは、自治体の進める高齢者向け安全対策にも活用されています。アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、栃木県の「しあわせ高齢ドライバースクール」や、茂木町の高齢ドライバースクールにこのプログラムが採用され開催されました。クルマを必要とする高齢者にとって、日頃の運転を振り返り、安全運転知識を増やす機会として期待されています。

※ 東北工業大学の太田博雄教授らが財団法人国際交通安全学会などで研究成果を報告している「自己観察法」の手法を取り入れている。自分の運転を録画して観察し、「我が見振り見て、我が振り直す」手法。

「Honda健康ドライブスクール」のプログラムを取り入れた、埼玉県警察本部の「高齢者いきいき運転講座」

歩行中や自転車乗用中の交通安全を伝える

高齢者の歩行者・自転車用の交通安全教育プログラム「あやとりぃ 長寿編」は、高齢者向け交通安全教室で活用されています。地区普及ブロックでは、このノウハウの普及に努めており、地域の指導者へ広がりを見せています。栃木普及ブロックでは、栃木県真岡市・芳賀町・小山市などで交通安全教室を開催し、昼間と夜間のドライバーからの視認性の違いや道路の斜め横断の危険性などを伝えました。栃木県益子町では、地域の交通教育指導員が「あやとりぃ 長寿編」を採用して高齢者交通安全教室を行い、地域に根ざした交通安全活動を展開しています。また、高齢者の自転車事故防止のため「Honda自転車シミュレーター」を活用した交通安全教室も実施しています。鈴鹿普及ブロックでは、兵庫県西宮市で高齢者自転車教室を開催。実技と自転車シミュレーターを組み合わせた指導を展開し、安全行動の意識づけを図りました。さらに今年は、地域の要請を受け栃木県や熊本県などで、電動車いす利用者への安全な利用方法を指導する指導者養成研修会も実施しました。

栃木県益子町と栃木普及ブロックが連携し、高齢者学級で「あやとりぃ 長寿編」を実施

熊本県では、電動車いす利用者への安全指導方法を身につけていただく指導者研修を実施

交通安全力を高める「いきいき運転講座」

一般社団法人日本自動車工業会が開発した高齢者向け交通安全プログラム「いきいき運転講座」の普及にも努めています。交通安全トレーニングと、脳の働きを高める「脳トレ」を組み合わせたプログラムで、仲間と一緒に話し合いながら、交通安全力を高めていくのが特長です。

地区普及ブロックは自治体、警察、地域と連携して、このプログラムを実践できる指導者を養成し、教育の輪を広げていく活動を展開しています。例えば、浜松普及ブロックでは、静岡県浜松市・磐田市・富士宮市・藤枝市、岐阜県羽島市などの自治体と協力しながら「いきいき運転講座」を実施しました。浜松市浜北区では、浜北警察署の交通安全指導員が「いきいき運転講座」を主催し、参加する高齢者がリーダーとなって安全な通行方法を話し合うなど、地域での普及が進んでいます。

高齢者同士が安全について話し合う静岡県浜北警察署による交通安全教室

社団法人千葉県シルバー人材センター連合会と埼玉普及ブロックが連携した「いきいき運転講座」

指導者の声

Hondaのインストラクターの方から「いきいき運転講座」の指導ノウハウを提供してもらい、交通安全教室で積極的に活用しています。今年は10月までに高齢者を対象に20回実施しました。高齢者同士で話し合いながら進行するので、従来の講話中心の交通安全教室に比べて一人ひとりの参加意識も高くなっています。また、この教育プログラムは運転免許を持っていない方が参加できるのも特長の1つです。運転者、歩行者、自転車利用者、様々な立場からの意見を聞くことで、日頃の自分の交通行動を見つめ直す良い機会になっていると思います。

静岡県浜北警察署 交通安全指導員 係長　大場 佐生代 さん

ソフトウェアの開発

運転者に気づきを促す教育プログラムや教育機器を開発しています。

Hondaは安全運転教育の効果を高めるための教育プログラムや教育機器の開発を行っています。教育機器であるシミュレーターは、交通場面における危険の疑似体験や、自分の運転の振り返りなど実践的に気づきを促す教育を進めるにあたって最適です。さらに、シミュレーターの開発で培った独自の技術を活かして、新たな教育機器を生み出しています。また、研究団体などと連携して、時代のニーズに合った教育プログラムづくりにも取り組んでいます。

危険予測能力を高めるためのシミュレーター

今年2月に発売した「Honda自転車シミュレーター」は、自転車乗用中の危険予測能力を高め、交通ルールとマナーを楽しく学んでいただくことを目的としています。発売以来、警察や自治体、自動車教習所などに導入され、各地で実施されている自転車教育の中で活用されています。

「Hondaドライビングシミュレーター」は2001年の発売以来、国内外の教習所や研究機関などで活用されています。そして今年3月、このシミュレーターをフルモデルチェンジしました。受講者の危険に対する認知力や理解力をさらに高められるよう、運転中に起こる可能性が高い危険場面での注意点や安全運転のアドバイスを、わかりやすく解説する「危険場面解説機能」などを新たに追加しています。また、高画質な液晶ディスプレイを採用することで、より実際に近い運転感覚の体験も可能になりました。

「Hondaドライビングシミュレーター」は従来の6軸に加え、コンパクト設計の2軸モーションタイプを用意

各地域での自転車教育に活用されている「Honda自転車シミュレーター」

シミュレーション技術を活かした教育機器

イラストや写真など静止画によるKYT(危険予測トレーニング)は「この状況ではこうなる」というパターンの引き出しを増やすのには有効ですが、時間経過とともに状況が変化している交通環境の中で予測し、判断する能力のトレーニングには対応しきれていません。こうした点を補完し、実際の交通状況により近づけることを目的に、二輪・四輪のシミュレーション技術を応用し、臨場感あるコンピュータグラフィックス映像を利用した「Honda動画KYT」を今年11月に発売しました。この「Honda動画KYT」は、実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を受講者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器。動画を見ながら、危険を感じた場面で手元のボタンを押し、危険予測を行います。その後、ボタンを押した時点を記録したデータをスクリーンに表示し、「どのような危険を感じたのか」などのディスカッションを行うことで、二輪車や四輪車を運転する際の安全を学びます。社員の安全教育に取り組む企業や、企業向けの研修を行う教習所への普及をめざしています。

静止画とは異なり、瞬間での判断が求められるので、実際の運転に近い状況でトレーニングが可能。また多人数にも対応

「Honda動画KYT」販売セット。指導者用ノートパソコンと受講者用のボタンなどがセットになっている

医療機関でも活用される「Hondaセーフティナビ」

「Hondaセーフティナビ」はより広く、より多くの方々にHondaのシミュレーターを普及することをめざして開発された安全運転教育用ソフト。パソコンを使用し、市販のステアリングなどと組み合わせることで、簡易型シミュレーターとして手軽に使用できることが特長です。今、この「Hondaセーフティナビ」が医療機関にも導入されています。

その医療機関の1つ、亀田メディカルセンター[※1](千葉県鴨川市)では、脳梗塞などが原因で高次脳機能障害になって入院された患者さんが通常の生活に戻った時、クルマの運転ができるかどうか、運転能力を評価する材料の1つに利用しています。確認動作など、机上の運転適性検査では把握できないことがわかるので、より適切なアドバイスができると、医療の現場でも評価されています。

亀田メディカルセンターでは、あらかじめ設定されているコースを運転してもらい、その走行状況の再生画面を見せながらアドバイス(患者さんによっては近隣の自動車教習所と連携して実車教習を行う)

※1 亀田メディカルセンターとは、亀田総合病院を中心とした亀田クリニック、亀田リハビリテーション病院などの医療サービスの総称

運転者向けの新教育プログラム「感情コントロール」

クルマの運転では、いくら運転技術が優れていても、運転中のネガティブな感情(焦り・怒り)によって行動が左右され、自ら危険な状況をつくり出し、事故につながってしまうケースがあります。「感情コントロール」とは、こうしたネガティブな感情とドライバーが運転時にどう向き合い、どのように自己コントロールをして安全運転に結びつけていくかを心理学的に検証し、開発された教育プログラム。財団法人国際交通安全学会の研究プロジェクト[※2]「ドライバーの感情特性と運転行動への影響〜感情コントロールのための教育プログラムの開発を目指して〜」として研究が進められ今年、その研究成果が発表されました。

この教育プログラムは、公益法人の研究成果として社会で幅広く活用されることを前提に開発されており、様々な教育現場での利用が可能となっています。今年4月よりHondaの交通教育センターでは企業ドライバー向けの研修に、この「感情コントロール」をいち早く導入しました。

※2 研究プロジェクトは、小川和久・東北工業大学共通教育センター教授をリーダーに、メンバーとして太田博雄・東北工業大学ライフデザイン学部教授、向井希宏・中京大学心理学部教授、本田技研工業㈱安全運転普及本部が参画

「感情コントロール」を活用した企業向けの安全運転研修。「感情コントロール」のポイントは自分の感情特性に関する「自己理解」と、各々が確認した自分のネガティブな感情への、自分なりの「対処法の学習」。これらを受講者同士がディスカッション形式で進めていく点が特長

指導者の声

フルモデルチェンジした「Hondaドライビングシミュレーター」を今年4月から運用しています。運転席まわりは実車と同じ造りなので、違和感なく操作ができると教習生の方にも好評です。Hondaのシミュレーターは現実に近い交通状況と危険場面が再現されています。路上教習では体験できない場面をシミュレーターの中で体験しておくことは、たいへん有効です。安全運転意識の高いドライバーを育てることが私たちの目的なので、そのために大いにシミュレーターを役立てていきたいと思います。

福島県 杉妻自動車学校代表取締役　高橋 覚男 さん

交通安全の輪を全国に広げ、定着させるために。

自動車教習所は運転免許取得のための教育の場としてだけでなく、地域での交通安全教育を実践する場としても期待されています。同じ志を持つ自動車教習所に対し、Hondaは教育プログラム・教材や指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各地の自動車教習所が主体的に取り組む交通安全活動をサポートしています。

自動車教習所の自主的な活動をサポート

Hondaは、地域において交通安全教育に積極的に取り組んでいる自動車教習所との連携を通じて、交通安全の輪を全国に広げ、定着させるための活動をサポートしています。現在、17都道府県36校の自動車教習所と提携し、活動を推進しています（下図参照）。

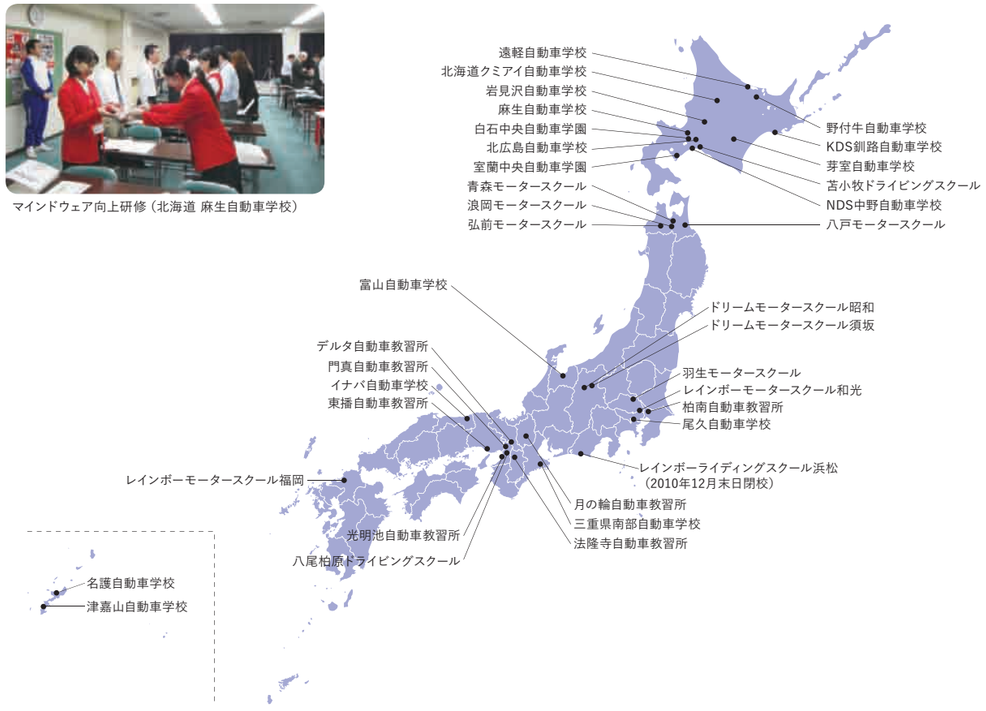
今年は、沖縄県にある津嘉山自動車学校や名護自動車学校と熊本普及ブロックが協働で、県内の高校での二輪車や自転車の安全運転教室を開催しました（P17参照）。高校の先生方からは、「体験を通じて学べるので生徒が理解しやすい」と評価されています。また、青森県にある青森モータースクールではHonda自転車シミュレーターを導入し、地元の高校生への自転車教育を積極的に行っています。

さらに、教習所職員の方々にHondaの交通教育センターでのお客様対応などを紹介する「マインドウェア向上研修」を今年からスタートし、提携先の自動車教習所にご利用していただいています。

沖縄県立沖縄水産高校の生徒への二輪車安全運転教室（津嘉山自動車学校・名護自動車学校）

地元の高校生を対象とした自転車教室（青森県 青森モータースクール）

マインドウェア向上研修（北海道 麻生自動車学校）



関係団体と連携し、交通事故の低減をめざしています。

交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも、積極的に連携しながら活動の拡大に取り組んでいます。
社会のニーズに合わせて、交通安全に関する情報提供も行っています。

業界活動などへの積極的な協力

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年10回目を迎えました。会場となっている鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国82校171名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組まれました。

1969年より毎年、警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」には審判業務などで協力しています。

また、一般社団法人日本自動車工業会の一員として春と秋の「全国交通安全運動」にも協力しています。二輪車では社団法人全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導などに協力しました。

第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

第43回二輪車安全運転全国大会の審判業務などで協力

第42回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などで協力

ホームページや情報紙を通じた情報発信を展開

ホームページ「Hondaの交通安全」では、安全運転に役立つ情報を発信しています。安全運転やエコドライブのポイントをはじめ、お子様や高齢者の方々に交通事故にあわないようにしていただくためのアドバイスを紹介しています。

今年、「シニアの皆様への交通安全情報」では、地域の指導者の方が高齢者対象の交通安全教育の現場で、そのまま教材としてご活用いただけるコンテンツ「シニア向け交通安全啓発シート」を追加しました。

この他、1971年より発行しているHondaの交通安全情報紙「Sj」を通じても、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。

ホームページ「Hondaの交通安全」。初心運転者、子ども、高齢者、女性など、幅広い方々に対応したコンテンツを用意

遊びながら交通安全について学べるコンテンツ「KYT」「交通安全ゲーム」なども充実

交通安全情報紙「Sj」

※これらの情報は、ホームページで詳しくご覧いただけます。（裏表紙参照）

安全運転普及活動拠点

国内拠点

地区普及ブロック

❶ 栃木普及ブロック（栃木県真岡市）
❷ 埼玉普及ブロック（埼玉県狭山市）
❸ 浜松普及ブロック（静岡県浜松市）
❹ 鈴鹿普及ブロック（三重県鈴鹿市）
❺ 熊本普及ブロック（熊本県大津町）

※CDG は教習所併設センターです。

交通教育センター	
センター数	8
指導者数	約 90
四輪研修車両	約 350
二輪研修車両	約 1000
自動車教習所（Hondaグループ）	
教習所数	3
指導者数	約 160
四輪教習車両	約 150
二輪教習車両	約 150

交通教育センター

A

アクティブセーフティ トレーニングパークもてぎ
（活動開始：1997年）
日本初の「スリパリーコース」をはじめ、さまざまな危険を安全に体験できる先進施設を活用し、官庁・企業・団体や一般向けの各種教育プログラムを用意。
TEL.0285-64-0100

B

交通教育センター レインボー埼玉
（活動開始：1980年）
直線600ｍのコースを活用した高速ブレーキ、危険回避等の訓練が可能。官庁・企業・団体をはじめ、地域密着のさまざまなニーズに応える教育プログラムを用意。
TEL.049-297-4111

C

交通教育センター レインボー和光
（活動開始：1997年）
地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている。
TEL.048-461-1101

D

交通教育センター レインボー浜松
（活動開始：1982年）
地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている。
※2010年12月末日閉校

E

交通教育センター レインボー浜名湖
（活動開始：2002年）
教育効果を上げるための独自の運転診断システムを取り入れた教育プログラムを用意。官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールを開催。
TEL.053-527-1131

F

鈴鹿サーキット 交通教育センター
（活動開始：1964年）
官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールを開催。鈴鹿サーキットレーシングコースを利用した教育プログラムもある。
TEL.059-378-0387

G

交通教育センター レインボー福岡
（活動開始：1973年）
地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている。
TEL.092-963-1421

H

交通教育センター レインボー熊本
（活動開始：1989年）
官庁・企業・団体をはじめ、お客様ニーズに合わせて、地域に密着したさまざまなスクールを開催。サーキットコースを使用した教育プログラムも用意。
TEL.096-293-1370

海外拠点

今年はシンガポールの交通教育センターがリニューアルオープンした他、ネパールで新しく交通教育センターが誕生。また、中国で店頭安全啓発活動が実施されるなど、世界36カ国で活動を展開しました。（日本を除く）

※各国の実情に合わせて活動を展開。

交通教育センター新設

ロシア

Honda Motor RUSの交通教育センターオープン
（昨年11月）
Honda Motor RUSでは、新たに交通教育センターをオープン。販売店スタッフ研修が行われています。

ネパール

交通教育センター「Syakar Safety Riding Training Center」オープン
（3月）
Hondaのディストリビューターであるシャカール社は、ネパール初の二輪安全運転講習センターをオープン。二輪車市場の拡大にあわせ、安全運転の普及を進めています。

活動トピックス

シンガポール

交通教育センター「Singapore Safety Driving Centre」リニューアルオープン
（6月）
リニューアルオープンした交通教育センターでは、東南アジア初となる多層式実教習コースを備え、二輪車から大型自動車まですべての教習を受けられる自動車教習所となっています。

中国

広汽本田で店頭安全啓発活動開始

広汽本田では、今年店頭での安全啓発活動をスタート。四輪運転者への安全指導が広がりを見せています。

資料編

2010年安全運転普及活動動員数（2010年1月～12月末見込み）

Hondaグループ活動

	指導者	参加者
地域普及活動		
あやとりぃシリーズ	1,149	7,400
自動車シミュレーター教育	446	10,792
いきいき運転講座	414	1,236
その他のイベント	201	23,311
交通教育センター		
企業向け四輪講習	3,571	28,484
企業向け二輪講習	629	6,827
個人向け四輪講習	—	2,934
個人向け二輪講習	—	18,426
その他	224	18,818
販売会社		
安全運転講習会	—	12,627
Hondaグループ活動 合計	**6,634**	**130,855**
総合計		**137,489**

地域連携活動

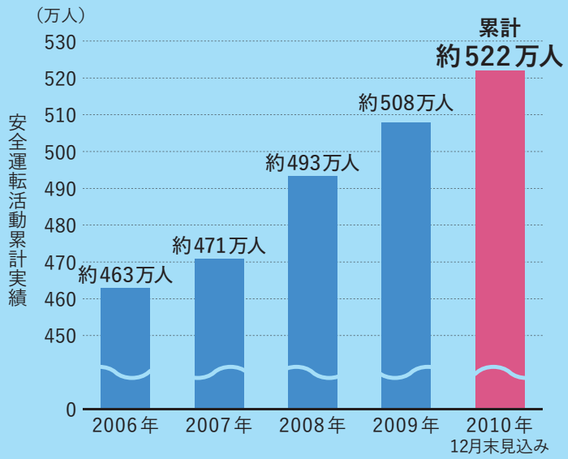
	指導者	参加者
地域普及活動	19	203,354
教習所	—	66,243
その他イベント	—	14,839
地域連携活動 合計	**19**	**284,436**
総合計		**284,455**

海外（シンガポール、タイ、インドネシアなど主要活動国11カ国での実績）

	参加者
安全運転普及活動	3,070,000
海外合計	**3,070,000**

2010年安全運転普及活動動員数累計

（Hondaグループ活動、1970～2010年12月末見込み）



安全運転普及活動一覧

	活動の場			活動内容	指導者	主な対象			
						子ども	学生	一般・指導者	高齢者
国内	販売会社	四輪	レインボーディーラー制度※1	店頭安全アドバイス／安全ミニ講習会／ドライビングスクール／地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター／チーフセーフティコーディネーター		●	●	●
国内	販売会社	二輪	セーフティサポートディーラー制度※2	店頭安全アドバイス／ライディングスクール／地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー／スポーツライディングスクールインストラクター		●	●	●
国内	販売会社	汎用		店頭安全アドバイス	モンパル安全運転インストラクター／モンパル安全運転指導員				●
国内	交通教育センター			運転者、指導者研修／二輪・四輪販売拠点研修／一般ライダー、ドライバースクール／指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会／各年代別講習	交通教育センターインストラクター	●	●	●	●
国内	地区普及ブロック			地域の交通安全活動協力／指導者養成協力	安全運転インストラクター	●	●		●
国内	Honda事業所			従業員への交通安全指導／地域の安全運転指導	安全運転インストラクター			●	
国内	Honda関連会社			地域の交通安全活動協力	Hondaパートナーシップインストラクター	●	●	●	●
国内	自動車教習所との連携			地域の交通安全活動協力／二輪・四輪スクール	教習指導員	●	●	●	●
国内	業界活動			交通安全キャンペーン／交通安全教育プログラムの編纂／指導者養成協力		●	●	●	●
海外	現地法人	販売拠点（四輪・二輪）		店頭安全アドバイス／ドライビングスクール／ライディングスクール／地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター		●	●	●
海外	現地法人	交通教育センター		指導者研修／二輪・四輪販売拠点研修／一般ライダー、ドライバースクール／ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング／地域の交通安全活動協力／運転免許取得講習／指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター	●	●	●	●

※1 レインボーディーラー制度：Hondaの安全に関する認定基準を満たした四輪販売拠点。
※2 セーフティサポートディーラー制度：Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

その他の主な情報公開

Hondaの「業績」や「CSR」「環境保全活動」「社会活動」については、右記の冊子およびホームページ で情報を開示しています。

CSRレポート

Hondaの2009年度の企業の社会的責任（CSR）をはたすための主な活動を、年次性の高い情報を中心にまとめた報告書。2010年7月発行

http://www.honda.co.jp/csr/

環境年次レポート

Hondaの環境への取り組みの考え方と2009年度の主な実績および今後の目標をまとめた報告書。2009年度版より、「Honda環境年次レポート」「Honda環境年次レポート データ・事例集」の2部構成。2010年6月発行

http://www.honda.co.jp/environment/publications/report/

アニュアルレポート

Hondaの2009年度の業績概要をまとめた報告書。2010年7月発行

http://www.honda.co.jp/investors/annualreport/2010/

Hondaの社会活動Webサイト

Hondaの社会活動の考え方や幅広い活動内容を紹介するWebサイト。

http://www.honda.co.jp/philanthropy/

資料編

安全運転普及本部　この1年の歩み

2010年　交通社会の動き

1月

- 2009年の交通事故死者数は9年連続で減少し4914人となった。また、発生件数、負傷者数も5年連続で減少。死者数は1952年以来57年振りに4千人台となり、2012年までに死者数を5000人以下にするという政府目標を前倒しで達成。

4月

- 子どもと高齢者の交通事故防止をテーマに「春の全国交通安全運動（4/6～15）」を実施
- 一般社団法人日本自動車工業会「2010年春季交通安全キャンペーン（4/6～5/5）」を実施。四輪は後席シートベルトの着用、二輪はヘルメットの正しい着用を促進。
- 交通安全に対する国民の意識を高める国民運動「交通事故死ゼロを目指す日」を実施（4/10、9/30）。
- 国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式（4/16）。
- 「高齢運転者等専用駐車区間制度」が施行（4/19）。

7月

- 二輪業界が8月19日の「バイクの日」を中心に7月から9月にかけて、楽しさ、安全、ライダーシップをテーマに「バイク月間」を実施。

8月

- 有識者による「高齢運転者標識の様式に関する検討委員会」がもみじマークの代替案を発表（8/19）。

9月

- 高齢者の交通事故防止をテーマに「秋の全国交通安全運動（9/21～9/30）」を実施。
- 一般社団法人日本自動車工業会「2010年秋季交通安全キャンペーン（9/21～10/31）」を実施。春季の内容に加え、高齢者の歩行中・自転車乗用中の死者数を減らすため、薄暮時の具体的な安全運転行動である夕方早目のヘッドライト点灯を促進。

2009年

12月

- 「飲酒運転しない、させないガイド」および「ストップ！飲酒運転ストラップ」を発行

2010年

1月

- 茨城県の交通安全指導員を対象に「いきいき運転講座」の指導者養成を実施（茨城県、1/14）
- 「栃木県視覚障害福祉協会ハイブリッド静音性体験会」に協力（栃木県、1/20）
- 静岡県「ふじのくに交通安全県民フェア」に「Hondaドライビングシミュレーター」「ライディングトレーナー」などを出展（静岡県、1/23～24）
- 芽室自動車学校にてエコドライブ研修の指導者養成（北海道、1～3月）

2月

- 「Honda自転車シミュレーター」（以下、自転車シミュレーター）を発売
- 各地区で親子交通安全教室を開催（宮崎県・熊本県・佐賀県・大分県、2～11月）

3月

- 「Hondaドライビングシミュレーター」をフルモデルチェンジし、発売（3/2）
- 熊本県交通安全教育講習員を対象に電動車いす指導者研修を開催（熊本県、3/12・16）
- 「栃木県民交通安全イベント」に協力（栃木県、3/20）
- ネパールに交通教育センター「Syakar Safety Riding Trainig Center」オープン（ネパール、3/23）
- 「あやとりぃ　ひよこ編」を改編し、地区普及ブロックを通じて地域に展開

4月

- 「岐阜道三まつり」に「Hondaセーフティナビ」「ライディングトレーナー」などを出展（岐阜県、4/3）
- 「近江八幡安全フェスタ」に自転車シミュレーターを出展（滋賀県、4/10）
- 春の「Hondaセーフティキャンペーン」開催（4/6～15）
- バルーンフェスタにて「親子でバイクを楽しむ会」を開催（栃木県・長野県・三重県・佐賀県、4～11月）
- 埼玉県警主催・高齢ドライバーを対象とした「高齢者いきいき運転講座」に協力（埼玉県、4/12・7/12）
- 「Enjoy Honda SUZUKA 2010」で安全運転イベントを開催（三重県、4/17～18）
- 提携教習所にて自転車シミュレーターの指導者養成を実施（北海道・青森県・沖縄県、4～5月）
- 「Honda交通安全かるた」の大判サイズを発売

5月

- 立命館アジア太平洋大学（APU）にて二輪交通安全教室を開催（大分県、5/19）

6月

- 「第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催（三重県、6/3～4）
- 三宅島復興プレイベントで「親子でバイクを楽しむ会」を開催（東京都、6/6）
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員中央研修会に協力（三重県、6/7～8）
- シンガポールの交通教育センター「Singapore Safety Driving Centre」リニューアルオープン（シンガポール、6/9）
- 石川県能美市内の5つの保育園の園児・保育士を対象に「あやとりぃ　ひよこ編」の実演指導を実施（石川県、6/15～16）
- 岡山県倉敷市で「あやとりぃ」教室を実施（岡山県、6/30）
- Hondaさつき会・安全運転インストラクター養成研修会を開催（静岡県、6/29～30）
- Honda関連企業災害防止協議会・安全運転インストラクター養成研修会を開催（埼玉県・栃木県、6～7月）

7月

- 千葉県幼児交通安全教育セミナーにて交通安全教育指導の講演に協力（千葉県、7/30）
- 「第43回二輪車安全運転全国大会」を開催、審判派遣協力（三重県、7/31～8/1）

8月

- 「第45回交通安全子供自転車全国大会」に自転車シミュレーターを出展（東京都、8/5）
- 「2010 トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催（埼玉県、8/6）
- 自転車シミュレーターや「Honda交通安全かるた」を活用した子ども向けの交通安全教室を開催（東京都・福岡県・北海道、8～10月）
- 鹿児島綜合警備保障㈱交通マナーアップ指導員の育成研修に協力（鹿児島県、8/23）
- 中国の広汽本田汽車有限公司にて店頭安全啓発活動開始（中国）

9月

- 警察庁「第42回全国白バイ安全運転競技大会」に審判派遣協力（茨城県、9/11～12）
- 自転車シミュレーターによるKYTを中心とした新潟県交通指導員研修会を開催（新潟県、9/8・14・16）
- Honda Dream(二輪販売会社)九州合同ツーリングにて「親子でバイクを楽しむ会」を開催（鹿児島県、9/18）
- 秋の「Hondaセーフティキャンペーン」開催（9/21～）
- 「国際福祉機器展」に「Hondaセーフティナビ」をリハビリ向けに再構築したソフトで出展（東京都、9/29～10/1）
- Webサイト「Honda交通安全シニア」を指導者向けの内容にリニューアル（9/30）

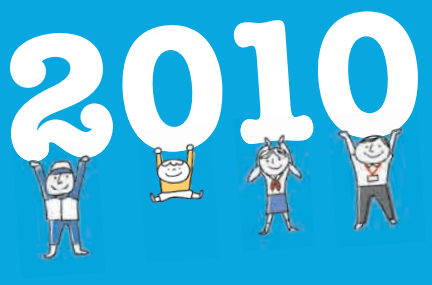
10月

- 「交通安全体験セミナー2010」を開催（三重県・愛知県、10/5）
- 提携教習所対象の「マインドウェア向上研修」を開始（10/9）
- 「埼玉サイクリングフェスティバル」にて自転車シミュレーターを出展（埼玉県、10/17）
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員養成講習会および審査指導協力（茨城県、10/25～26）

11月

- 「Honda動画KYT」を新規発売（11/1）
- 「第43回指定自動車教習所全国大会」に「Hondaセーフティナビ」と自転車シミュレーターを出展（東京都、11/5）
- Honda七日会・安全運転インストラクター養成研修会を開催（三重県、11/3～26）
- 「社内でできる安全運転指導セミナー」を開催（栃木県、11/24）
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員養成講習会及び審査指導協力（三重県、11/25～26）
- 「さいたま交通安全フェア2010～交通安全県民大会～」にて自転車シミュレーターを出展（埼玉県、11/27）

HONDA
The Power of Dreams



Hondaの安全運転普及活動に関する情報は、Webサイトでもご覧いただけます。本報告書もWebサイトよりダウンロード可能です。

ホンダ　交通安全　検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

SAFETY-JAPAN

VEGETABLE OIL INK

本田技研工業株式会社　安全運転普及本部
〒107-8556　東京都港区南青山2-1-1　TEL 03-5412-1736　FAX 03-5412-1737

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC™ C014687